

四万十川で「神様の結婚式」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、10月11、12日、土佐の小京都といわれる中村市で執り行われた『神様の結婚式』についてご紹介します。

『神様の結婚式』で知られるこの祭りは、正式には「不破(ふば)八幡宮大祭」といい、八幡宮の男みこしのもとに、四万十川河口近くにある一宮神社の女みこしが船でお嫁入りしてくるというおめでたい祭りです。応仁の乱(1467～1477年)を避け中村に逃れた前関白・一条教房(のりふさ)が、当時横行していた嫁かつぎ(略奪結婚)を戒め、結婚の神聖さや厳粛さを示すために始めたといわれています。

一宮神社には、豊作の神様「徳益御前(とくますごぜん)」、雨の神様「椎名(しいな)御前」、そしてけんかの神様「鉾名(ほこな)御前」の三体の女神がおり、毎年結婚前日の夜、神くじによって花嫁を決めるのが習わしです。今年は鉾名御前が選ばれ、12日早朝、四万十川を川舟に乗って約7km上流にある八幡宮前の船着場に到着。羽織袴姿でお迎えに上がる『船戸上げ』、女神の引き渡しを拒み困らせる『茄子(なすび)取り』、そして『三三九度』などの儀式を済ませた後、男みこしの待つ境内(通常は河川敷)へ。

一方、結婚式に先立つ8月17日に『みこし洗い』を済ませて四万十川で清められた男みこしは、市街地を練り歩く『御旅』の後、同八幡宮の境内で女みこしとご対面。「エッサ、エッサ」と掛け声も勇ましく、女みこしの周りを練り歩く『角(かく)回し』の後、いよいよ祭りのクライマックスである『輿(こし)あわせ』。互いの担ぎ棒の先端を「ドン、ドン、ドン」と3度ぶつけ合い、めでたく結婚が成立すると、大勢の見物客から祝福の拍手と歓声が沸き起こりました。

この祭りは、古文書にもとづき、古式ゆかしく伝承されており、日本の民俗でも極めて珍しい祭りとして注目を集めています。また、四万十川にはまだこのように船文化が残り、祭りの舞台として川が流域の人々の生活の一部となっています。

●お問い合わせ 中村市商工観光課 TEL.0880-34-1783



▲男女みこしをぶつけあう「輿あわせ」で結婚成立



Topics

東京・浅草で「四万十くぼかわ展」開催します!!

四万十川と隅田川は友好河川提携が結ばれています。これを縁に開催される同展は、四万十川霧の町写真コンテストの入賞作品をはじめ、四万十川の地場産品販売や観光案内など多彩な内容。「元気なまち窪川町」を全国にPRします!

■期間/11月11日(土)～16日(日) ■会場/隅田公園リバーサイドギャラリー

●お問い合わせ/四万十くぼかわ展実行委員会事務局(窪川町役場企画課内)

TEL.0880-22-3124 FAX.0880-22-3123 窪川町HP <http://www.kubokawa.gr.jp/>